

実体経済の動向

◇生産、出荷は増加、在庫は3か月ぶりの減少

(生産—小幅増加)

4月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比(注)、速報)は、+0.6%と前月減少(-0.7%)のあと増加した(前年同月比+0.6%)

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

4月の動きを財別にみると、耐久消費財が時計等の減少から、6か月ぶりに減少したほかは各財とも軒並み増加した。このうち、生産財の増加は、需要好調の一般機械部品や通信・電子部品が前月に引続き増加したほか、素材関連でも鉄鋼や非鉄が増加したことによるもの。一方、建設財もセメントは引続き減少したが、これまで減少傾向を続けてきた土石製品(コンクリート管、パイル等)や板ガラス、スチールシャッター等が久方ぶりに増加したため、全体でも1年ぶりの増加となった。このほか、資本財は輸送機械が乗用車を中心に、また輸送機械を除く一般資本財は金属加工

機械、通信機械等を中心にいずれも3か月ぶりの増加となった。

(出荷—大幅増加)

4月の出荷(速報)は、各財とも増加し、+2.4%と3か月ぶりの大幅増加となった(前年同月比-0.2%)。

まず一般資本財は、前月著増の電力・通信ケーブル、化学機械、金属加工機械、通信機械、ポンプ等が反動増となったほか、土木建設機械や農業機械が輸出好調から増加し、また、合理化投資関連の事務用機械も順調に増加したため、全体では、前月減少のあとかなりの増加となった。また資本財輸送機械は、前月減少のあと、輸出の堅調や物品税引上げ前の駆け込み需要などを映じた乗用車の高伸を主因に、大幅増加となった。

建設財は、住宅関連のアルミサッシ・ドア等が末端工務店の在庫調整進捗などを映じ久方ぶりの増加となったほか、一部官公需関連財(小形棒鋼、コンクリート管・パイル等)もやや持直し、また山形鋼、熱間圧延鋼管等も輸出増などからかなりの増加をみたため、全体では1年2か月ぶりの増加となった。

耐久消費財は、白もの家電(洗たく機、冷蔵庫)、

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	55年				56年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
鉱工業	143.3	140.5	142.6	145.0	145.6	144.6	145.4
前期(月)比	0.2	-2.0	1.5	1.7	0.6	-0.7	0.6
前年同期(月)比	9.1	4.6	3.4	1.4	-0.4	1.3	0.6
投資財	1.4	-1.2	0.1	-1.0	-1.1	-1.7	0.5
資本財	2.7	1.5	1.4	-0.6	-1.9	-2.1	1.2
同(輸送機械を除く)	2.9	1.4	2.0	-1.9	-1.6	-2.4	1.0
輸送機械	3.9	0.6	-2.0	5.0	-3.6	-1.5	4.6
建設財	-1.5	-7.7	-3.4	-3.3	-0.4	-2.6	2.3
消費財	0.0	0.8	4.6	5.3	1.1	-0.2	0.1
耐久消費財	3.0	3.8	6.0	8.1	3.2	1.8	-0.3
非耐久消費財	-2.4	-1.5	2.3	2.4	-1.2	-0.7	0.3
生産財	-0.1	-4.2	0.7	0.8	1.1	-0.7	1.3

(注) 通産省調べ。56年4月は速報。前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	55年				56年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
鉱工業	138.1	133.8	136.6	138.6	139.1	137.2	140.5
前期(月)比	-0.4	-3.1	2.1	1.5	-0.3	-1.4	2.4
前年同期(月)比	6.6	2.1	1.1	-0.1	-2.1	0.2	-0.2
投資財	0.9	-1.0	-0.9	-0.1	-0.6	-2.5	2.9
資本財	3.4	1.7	0.3	0.0	-1.0	-3.8	4.9
同(輸送機械を除く)	2.4	2.3	2.0	1.6	-0.2	-4.1	5.7
輸送機械	6.2	2.1	-4.4	2.1	-2.7	-3.8	5.7
建設財	-3.9	-6.0	-2.8	-2.9	-0.1	-2.0	1.1
消費財	-0.4	-1.0	5.1	5.2	-1.0	0.0	1.4
耐久消費財	3.6	-0.5	8.6	8.0	-1.9	-0.9	2.8
非耐久消費財	-4.0	-1.3	2.9	1.8	-1.8	0.2	1.0
生産財	-1.5	-5.3	2.2	0.4	-0.3	-1.5	2.6

(注) 通産省調べ。56年4月は速報。前年同期(月)比は原指数による。

カラーテレビ、エアコン等が内需不振から減少したものの、乗用車、二輪自動車、カメラ等が大幅増加となったため、全体でも3か月ぶりに増加した。また非耐久消費財は、灯油が建値引上げに伴う流通筋の在庫積増しから増加したほか、行楽需要を中心にカラーフィルム等も好伸したため、全体では前月に続く増加となった。

生産財は冷薄、棒鋼がかなりの増加となったほか、メーカーが値上げを表明した合繊原料、石油や不況カルテル入りを控えた上質紙等も流通・ユーザー筋の在庫手当などを反映して増加したことなどから、全体でも3か月ぶりに増加した。

(在庫——3か月ぶりに減少)

4月の在庫(速報)は、-0.2%と3か月ぶりに減少した(前年同月比+9.3%)。また在庫率指数(50年=100)も90.8と3か月ぶりに低下した(1月88.2→2月90.5→3月92.4)。

在庫の増減を財別にみると、一般資本財が事務用機械(電卓等)、金属加工機械等を中心に増加したのを除き、各財とも減少した。

まず資本財輸送機械は、出荷の増加を映じ、小型自動車、バス、トラック等を中心に3か月ぶりに減少し、建設財も土石製品(コンクリートブロッ

ク、道路用コンクリート製品)等が増加したものの、H形鋼、小形棒鋼が大幅に減少したため、全体でも微減となった。さらに、耐久消費財は、エアコン等民生用電気機械の減少持続などから7か月連続の減少となり、非耐久消費財も、灯油、天然色フィルム、浴用石けんを中心に4か月ぶりの微減となった。一方、生産財はアルミ地金、塩ビ樹脂、綿糸、綿織物等がかなり増加したほか、銅板、特殊鋼熱間鋼管等も輸出船待ち在庫の積上りを主因に増加したものの、条鋼類、合繊原料、印刷筆記図画用紙(非塗工)、ポリエチレン、ナフサ等が出荷増を主因にかなりの減少を示したため、全体では3か月ぶりに微減となった。

(民間設備投資——機械受注は減少、一般資本財出荷、建設工事受注は増加)

4月の機械受注(船舶・電力を除く民需)は、-3.0%と前2か月増加(2月+0.2%、3月+14.5%)のあと減少した(前年同月比 0.0%)。業種別にみると、製造業からの受注は、+5.9%と鉄鋼、石油等を中心に前月(+9.0%)に続き増加したが、非製造業(船舶・電力を除く)からの受注は-16.6%と、建設を主体に3か月ぶりに減少した。

一方、4月の建設工事受注(民間分、速報)は、+5.8%と前月(+12.2%)に続き増加した。

鉄工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	55年 (期末)		56年 (期末)		56年		
	6月	9月	12月	3月	2月	3月	4月
鉄指数	110.4	114.0	114.4	116.0	114.2	116.0	115.8
工前期(月)末比	2.9	3.3	0.4	1.4	0.6	1.6	-0.2
業前年同期(月)末比	9.3	10.7	8.5	8.1	7.5	8.1	9.3
投資財	6.6	4.5	1.9	0.4	0.3	0.4	-0.1
資本財	5.9	6.4	1.9	1.8	1.0	1.5	-0.8
同(輸送機械を除く)	7.6	7.3	1.4	-0.1	-1.8	0.9	1.7
輸送機械	2.7	4.3	3.0	5.8	4.7	2.8	-4.6
建設財	9.6	2.4	-0.1	0.4	0.6	-0.6	-0.1
消費財	-1.2	2.1	1.5	0.5	0.4	1.1	-0.2
耐久消費財	-0.1	11.3	-1.3	-6.6	-2.3	-0.9	-0.6
非耐久消費財	-3.2	-5.1	-3.1	9.1	3.2	4.1	-0.1
生産財	4.6	3.4	0.5	2.6	1.1	2.4	-0.3

(注) 通産省調べ。56年4月は速報。
前年同期(月)末比は原指数による。

需要先別機械受注・建設工事受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	55年		56年	56年		
	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
民需	5,525 (-10.0)	7,514 (36.0)	5,890 (-21.6)	5,647 (-3.2)	6,188 (9.6)	5,848 (-5.5)
同(船舶・電力を除く)	4,372 (-4.8)	4,886 (11.8)	4,431 (-9.3)	4,229 (0.2)	4,842 (14.5)	4,697 (-3.0)
製造業	2,229 (-15.3)	2,659 (19.3)	2,432 (-8.5)	2,344 (-2.3)	2,554 (9.0)	2,705 (5.9)
非製造業	3,338 (-4.4)	4,618 (38.3)	3,515 (-23.9)	3,321 (-3.1)	3,798 (14.4)	3,305 (-13.0)
同(船舶・電力を除く)	2,138 (7.3)	2,305 (7.8)	2,025 (-12.1)	1,919 (3.7)	2,306 (20.1)	1,922 (-16.6)
建設工事受注	3,935 (-4.9)	4,125 (4.8)	4,317 (4.6)	3,954 (-13.3)	4,436 (12.2)	4,692 (5.8)

(注) 機械受注は経済企画庁調べ。建設工事受注は建設省調べ(43社ベース)。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

また、4月の一般資本財出荷は+5.7%と、前月減少(-4.1%)のあと大幅増加となったが、これは発電機等が引続き増加したほか、前月著減の電力・通信ケーブル、化学機械、金属加工機械等が反動増を示したことによるもの。

◇小売商況——一進一退を続けるなかで幾分持直し気配

4月の全国百貨店売上高(通産省調べ、前年比、速報)は、+7.6%と前月の伸び(+6.4%)を幾分上回った。品目別には、家電製品やその他衣料品等が低い伸びにとどまっているが、食料品や雑貨が比較的順調な売行きを続け、紳士服、身の回り品

もやや持直した。

5月の主要耐久消費財の販売状況をみると、乗用車新車登録台数(軽を除く)は、前年比-16.6%と物品税引上げ前の駆け込み需要の反動から大幅な落込みを示した(前月+17.2%)が、2か月ならしてみるとほぼ前年並みの水準となっている(1~3月-5.0%、4~5月+0.3%)。

一方、家電販売は、VTR、音響製品が好調を続けたが、エアコンの出足は概して低調であり、冷蔵庫、洗たく機等も総じて伸び悩んだ。

◇商況の基調——底固い動き

5月の商品市況は、冷薄、H形鋼、亜鉛、毛

卸売物価指数の推移

(前月<期>比騰落率・%)

	ウエイト	55年	56年	56年					最近月の 前年 同月比
		10~12月 平均	1~3月 平均	1月	2月	3月	4月	5月	
総平均	1,000.0	- 1.7	- 0.7	- 0.5	- 0.2	- 0	0.5	0.8	0.5
食料品	140.9	1.4	0.3	- 0.4	0.1	0	0.2	0.7	3.9
非食料農林産物	18.9	- 5.0	- 2.8	- 1.3	- 1.8	- 1.7	1.0	0.4	- 15.2
繊維製品	62.9	- 1.5	- 0.4	- 0.2	0.4	0.4	- 0.1	0.2	- 2.0
製材・木製品	33.6	- 5.6	- 3.9	- 1.6	- 2.1	- 1.7	0.9	1.0	- 15.6
パルプ・紙・同製品	28.9	- 1.8	- 2.8	- 1.0	- 1.6	- 0.4	- 0.7	- 0.5	- 5.7
金属素材	12.6	- 6.6	- 5.9	- 4.1	- 2.2	1.6	3.1	2.6	- 9.0
鉄鋼	80.7	- 1.1	- 1.4	- 0.7	- 0.5	0	0.9	0.8	- 2.3
非鉄金属	26.1	- 3.9	- 8.7	- 4.0	- 3.1	- 0.2	1.0	- 0.6	- 12.7
金属製品	37.0	0.5	- 0.4	- 0.1	- 0.3	- 0.2	- 0.2	0	2.0
電気機器	73.3	0.1	0.3	0.1	0.1	0	- 0.3	0.2	0.8
輸送用機器	74.0	0	0.3	0.1	0.2	0.2	0.2	1.4	3.7
一般・精密機器	95.7	0.5	0	- 0.1	- 0.1	0.1	0.5	0.1	2.3
化学製品	91.1	- 1.4	- 2.1	- 1.1	- 0.8	- 0.4	0	0.2	- 3.4
石油・石炭・同製品	102.2	- 0.0	0.4	- 0.5	1.1	0.6	1.5	3.1	9.1
窯業製品	30.5	1.2	0.3	- 0.1	0	0.1	0.2	- 0.2	3.0
電力・ガス	25.5	- 4.4	0.1	- 0.3	- 0.3	0.1	0.3	0.2	- 1.0
雑品目	66.1	0.4	1.2	1.2	- 0.2	0	0	0	3.8
工業製品	816.4	- 0.5	- 1.1	- 0.4	- 0.5	- 0.2	0.4	0.7	- 0.1
大企業性製品	579.9	- 0.2	- 0.9	- 0.2	- 0.5	- 0.1	0.4	1.0	1.3
中小企業性製品	214.6	- 1.1	- 0.9	- 0.4	- 0.5	- 0.3	0.1	0.2	- 2.8
非工業製品	158.1	- 0.5	- 0.5	- 1.0	1.1	0.7	1.1	1.3	3.2
国内品	801.9	- 0.4	- 0.8	- 0.3	- 0.5	- 0.2	0.1	0.5	0.2
輸出品	94.2	- 1.6	- 0.3	- 1.3	0.9	1.1	1.5	2.0	0.8
輸入品	103.9	- 2.0	- 0.4	- 1.6	1.2	1.2	2.1	2.4	2.3

(注) 日本銀行調べ。

糸、製材が上伸したものの、実需追隨難から石油製品(ガソリン、灯油)が月央以降小反落したほか、綿糸、銅、セメント、合板、板紙もやや軟化をみるなど、ここへきて3月央以降の回復歩調はやや一服の貌。もっとも、こうしたなかにおいて、合織、ポリエチレン、上質紙が強保合いに推移したほか、月末近くには、棒鋼も再度反発を示すなど、全般に底固い地合いを維持した。

このように商品市況が底固い動きを続けている背景は、

- ① メーカー在庫の調整が、業種間の跛行性を伴いつつも、不況カルテル(註)など生産抑制に②、③のような需要面の動きも加わって、漸次進歩をみていること、
- ② 為替円安等に伴う輸出成約の進展を梃子にメーカー筋が売腰を強めたこと(棒鋼、H形鋼、合織等)、
- ③ 内需面でも、公共事業の早期執行に伴い棒鋼、塩ビ等官公需関連財の一部に幾分動意がみ

られ始めたほか、民間需要も総じて下げ止まらないし一部持直しの気配にあること、などの事情によるもの。

(注) 棒鋼、ポリオレフィン・フィルム、綿紡、塩ビ、両更クラフト、上質紙、造船の7業種で実施(6月13日現在)。

(卸売物価—0.8%の上昇)

5月の卸売物価は、前月比+0.8%と前月(+0.5%)に続き上昇した(前年同月比+0.5%)。品目別にみると、国内品は、市況商品が総じて保合い圏内の動きにとどまったものの、石油製品の値上げや酒税・物品税の引上げ等から+0.5%と2か月連続の上昇となった。一方、輸出品は為替円安を主因に、また輸入品は、為替円安に加え高値原油の入着もあって、それぞれ+2.0%、+2.4%と続騰した。

用途別にみると、素原材料は為替円安や高値原油の入着から+2.3%の上昇となったほか、中間品も、石油製品値上げが響き+0.4%の上昇となった。この間、完成品は消費財(酒類、乗用車)価

消費者物価指数の推移

(前月<期>比騰落率・%)

	ウエイト	55年	56年	56年			最近月の 前年 同月比		
		10~12月 平均	1~3月 平均	3月	4月	5月			
東 京	総合	100.0	1.1	1.3	0.6	0.3	* 0.6	* 4.8	
	季節商品を除く総合 (季節商品)	91.9 (8.1)	1.4 (- 0.6)	0.1 (14.3)	0.4 (1.7)	0.4 (0.4)	* 1.3 (- 5.8)	* 4.2 *(11.7)	
	食料	40.1	1.0	3.9	0.7	0	* - 0.9	* 5.8	
	住居	11.1	0.2	0.4	0	0.5	0.4	2.0	
	光熱	4.2	- 0.1	- 0.1	0.1	0	0.2	0.4	
	被服 雑費	12.4 32.2	5.7 0.3	- 2.5 0.5	1.7 0.2	- 1.5 1.4	4.4 * 1.2	5.9 * 4.9	
全 国	総合	100.0	1.0	1.1	0.6	0.8	...	5.2	
	季節商品を除く総合 (季節商品)	91.7 (8.3)	1.2 (- 0.9)	0.1 (11.2)	- 0.4 (2.7)	0.9 (0.7)	...	5.0 (7.3)	
	特殊 分類	農水畜産物	16.3	1.2	7.1	2.4	- 0.5	...	6.2
	工業製品	46.6	1.5	- 0.8	0.2	0.6	...	4.5	
	うち大企業性製品	21.4	0.3	0.1	0.1	0.2	...	4.0	
	中小企業性製品	25.2	2.5	- 1.4	0.5	0.9	...	4.9	
	サービス	33.6	0.5	0.8	0.1	1.5	...	4.6	

(注) 1. 総理府統計局調べ。
2. *は速報。

格の上昇を主因に、前月比 +0.6%と前月保合いのあと、上昇に転じた。

(消費者物価——5月<東京都区部、速報>は前月比0.6%の上昇)

5月の消費者物価(東京都区部、速報)は、前月比 +0.6%の上昇となった。これは、季節商品が野菜の値下り(前月比 -19.7%)を主因に下落したものの、除く季節商品が夏物衣料の出回りや、国鉄・私鉄運賃、入浴料等公共料金の引上げから上昇したことによるもの(除く季節商品では +1.3%)。

一方、前年同月比では、+4.8%と前月(+5.0%)をさらに下回り、54年10月(+4.2%)以来1年7か月ぶりに4%台に低下した。

◇季節調整後経常収支は久方ぶりの黒字

4月の国際収支をみると、貿易収支が輸出の好調を主因に前月に続きかなりの黒字(1,517百万ドル、前月同2,111百万ドル)となったほか、貿易外・移転収支も季節要因などから赤字幅を縮小したため、経常収支は474百万ドルの黒字と前月に続き黒字となった。また、貿易収支季節調整後のベースでも、827百万ドルと7か月ぶりの黒字(前月353百万ドルの赤字)を記録した。この間、長期資本収支は非居住者による買現先取引の期日落ち集中を主因に既往最高の流出超となったため、総合

収支では2,443百万ドルの大幅赤字となった(前月1,816百万ドルの黒字)。また、4月末の外貨準備高は、27,344百万ドルとなり13か月連続の増加となった(前月末比+324百万ドル)。

(輸出——再び増加)

4月の輸出(国際収支ベース、季節調整済み)は、+3.6%と前月減少のあと再び増加した。品目別(通関・ドルベース)にみると、船舶、事務用機器等が前月増加の反動もあって減少したものの、テープレコーダー、テレビなどが根強い増加を続け、また自動車も前月減少のあと当月はかなりの増加となった。

なお、5月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は、前2か月減少のあと +0.9%と増加した。品目別には、自動車、繊維製品が減少した反面、鉄鋼、電気機械が増加した。

(輸入——引続き減少)

4月の輸入(国際収支ベース、季節調整済み)は -3.7%と前月に続き減少した。品目別(通関・ドルベース)にみると、原油がイラン原油の入着増もあって増加したほか、石炭、小麦も反動増を示したものの、木材、羊毛が減勢を続け、また鉄鉱石、非鉄金属鉱、機械機器なども前月の反動も加わり大幅な減少を示した。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	55 年		56年	56 年			前年同月
	7～9月	10～12月	*1～3月	*2 月	*3 月	*4 月	
経 常 収 支	△ 1,011	608	△ 2,323	△ 207	763	474	△ 1,784
貿易収支	2,259	3,759	2,018	1,380	2,111	1,517	△ 759
輸 出	32,663	36,514	34,813	11,902	13,727	12,622	9,881
輸 入	30,404	32,755	32,795	10,522	11,616	11,105	10,640
貿易外収支	△ 2,968	△ 2,810	△ 3,778	△ 1,495	△ 1,036	△ 962	△ 932
移 転 収 支	△ 302	△ 341	△ 563	△ 92	△ 312	△ 81	△ 93
長期資本収支	2,092	△ 445	2,787	770	472	△ 3,188	△ 2,264
本邦資本	△ 3,694	△ 3,309	△ 4,325	△ 1,089	△ 2,273	△ 1,262	△ 848
外国資本	5,786	2,864	7,112	1,859	2,745	△ 1,926	△ 1,416
基礎的収支	1,081 (243)	163 (△ 669)	464 (1,778)	563 (211)	1,235 (119)	△ 2,714 (△ 2,361)	△ 4,048 (△ 3,780)
短期資本収支	997	1,388	960	149	444	303	△ 692
誤差脱漏	69	△ 879	1,000	△ 56	137	△ 32	△ 636
総 合 収 支	2,147	672	2,424	656	1,816	△ 2,443	△ 5,376
金 融 勘 定	2,147	672	2,424	656	1,816	△ 2,443	△ 5,376
外貨準備増減	1,126	1,464	1,788	183	335	324	△ 372
そ の 他	1,021	△ 792	636	473	1,481	△ 2,767	△ 5,748
外 貨 準 備 高	23,768	25,232	27,020	26,685	27,020	27,344	18,915
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 32,006	△ 32,816	△ 32,625	△ 34,222	△ 32,625	△ 35,279	△ 29,539

- (注) 1. 基礎的収支カテゴリー内は、貿易収支のみ季節調整した計数。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。
 4. *印は暫定。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出 信用状
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	
55年7～9月平均	10,689 (+ 3.2)	10,215 (- 4.1)	474	10,967 (+ 3.5)	11,536 (- 4.4)	7,588 (+ 5.2)
10～12 〃	11,547 (+ 8.0)	10,572 (+ 3.5)	975	11,898 (+ 8.5)	11,972 (+ 3.8)	7,726 (+ 1.8)
* 56年1～3月平均	12,393 (+ 7.3)	11,282 (+ 6.7)	1,111	12,607 (+ 6.0)	12,446 (+ 4.0)	8,525 (+ 10.3)
56年 * 1 月	12,239 (+ 2.8)	10,930 (+ 1.9)	1,309	12,766 (+ 4.0)	12,292 (- 0.3)	8,169 (+ 3.6)
* 2 〃	12,534 (+ 2.4)	11,506 (+ 5.3)	1,028	12,664 (- 0.8)	12,516 (+ 1.8)	8,979 (+ 9.9)
* 3 〃	12,406 (- 1.0)	11,411 (- 0.8)	995	12,391 (- 2.2)	12,531 (+ 0.1)	8,428 (- 6.1)
* 4 〃	12,855 (+ 3.6)	10,985 (- 3.7)	1,870	13,179 (+ 6.4)	12,381 (- 1.2)	8,332 (- 1.1)

- (注) 1. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。
 2. 輸出信用状接受高は、特殊大口を除く。
 3. *印は暫定。